

令和5年度 第2回 甲賀市総合計画審議会 会議録

開催日時	令和6年2月14日（水）15：00から17：00まで
開催場所	甲賀市役所別館 会議室101
出席委員	阿部委員、飯星委員、石野委員、岩倉委員、内田副会長、大北委員、大隅委員、金林委員、菊池委員、木村委員、佐治委員、杉山委員、寺井委員、西田委員、服部会長、原田委員、松村委員
事務局	清水総合政策部長、藤橋総合政策部次長、竜王政策推進課長、橘室長、高市課長補佐、中邨係長、橋本係長、山本主査、中井主事

会議次第	1 開会
	2 協議事項等
	第2次甲賀市総合計画（第3期基本計画）のチャレンジプロジェクト【資料1】

関連資料

- ①第2期基本計画の成果と課題の検証（中間・暫定版）【資料2】
- ②第3期基本計画策定にかかる論点データ集【資料3】

- 3 その他
- 4 閉会

1. 開会

2. 協議事項等

第2次甲賀市総合計画（第3期基本計画）のチャレンジプロジェクトについて【資料1】

事務局：【資料1】に基づき、説明。

A委員：今回出席している委員の役割は、市で検討された案に対して意見を言うだけなのか、施策の実行にまで関与するのか、役割を確認させて頂きたい。

事務局：意見をいただくというのが役割となる。実施計画など具体的な計画については4年間の成果について内容を見てご意見をいただき、方向性を修正することとなる。各分野からのご意見をいただくこととなる。

B委員：資料を見ていると疑問に思うことがあるが、そのことについても質問していいのか。

事務局：第3期は若者・子育て世代に選ばれるまちということでターゲットを絞った総合計画としたと考えており、本審議会では全体のコンセプトに対してご意見をいただきたい。

B委員：事務局は【資料1】の1ページ目について質問や意見を出してほしいということか。

事務局：まずは【資料1】についてご意見をいただきたい。【資料2】および【資料3】のデータおよびこれまでの課題に対して出した方針を提案したものである。

B委員：【資料1】のみではなく、次の資料も全て説明後に協議したほうがいいのではないか。

服部会長：総論として反対はないが、各論になったところで意見が出やすいのではないか。

事務局：【資料2】および【資料3】に基づき、説明。

C委員：プロジェクトは何をするのか。

事務局：一番大きな課題は人口減少であり、取り組む仕組みを考える。プロジェクトの中身は次年度作っていくが、今回は市として注力していく分野について示した。

D委員：【資料2】の右側に施策概要があり、各部各課で具体的に何をしていくか書いてあるが、その施策を統合して、5つぐらいのプロジェクトとして位置づけて目標とすることについて意見を求められているのではないか。実際プロジェクトがどうなるのか議論しないとイケない。どうやって人口減少を食い止めるのか、全員のためを目指すわけではなく、現在の若者の抱える問題や子育て世帯への支援が弱いので総合計画で補完していくということが言えればいいのではないか。

E委員：信楽焼に関係しているが、産業は衰退し、人口減少している。若者・子育て世帯に選ばれるまちづくりというのは地域特性があり、産業方面での提案ができるのではないかと思うが、もう少し具体的な話が出ればもう少し意見が出せる。身近な話題から始めたほうがわかりやすいのではないか。

事務局：議論の進め方について、事務局としてはまず計画の方向性を議論してから、個別の話という進め方をしたい。方向性を定めると、分野別計画の考え方に及んでいく。予算を重点的に配分することや組織機構の方向性に影響する。このため、まず、方向性の議論をすべきだと考

える。

F委員 : 滋賀県内の自治体を調べてもらって、他の自治体の事業の例があれば意見が出やすいのではないか。

事務局 : 次回以降になるが、総論と各論の部分について議論しやすいよう資料をお示ししていく。

G委員 : 福祉介護に「医療」「リハビリテーション」を加えるとより達成できるものとなる。プロジェクトの進め方になるが、市役所の有志などでワークショップ・プレストができるといいのでは。

H委員 : 第2期計画策定時から参加している。当時も範囲が広く、20分野65施策を絞った経緯がある。得意分野で重点的に話したほうがスムーズではないか。

事務局 : 基本構想の時に定めた3つのテーマであるが、変化を捉えて意見を取り入れていく必要がある。議論の進め方について、各論の話は各部局が所管する各分野別計画の各審議会でも議論するものであり、総合計画審議会委員の方の各分野を生かして議論がスムーズに進むよう考えさせていただきたい。

A委員 : 各論についての議論する時間がない中で各委員の得意分野の意見を何か書いて提出する形がいいのではないか。

質問だが、プロジェクトは必要か。組織間の連携が取ればプロジェクトは不要であり、20分野65施策を成果と課題を洗い出し、そこを徹底して実施していくべきではないか。

事務局 : プロジェクトを設定する必要性についてであるが、20分野65施策は絞ったのではなく、整理したことであり、行政が行う業務すべてが含まれている。限りあるリソースを全てに均等に割けないことから、どこに注力するかを決めたプロジェクトとして提案している。

C委員 : データが出ているが、データの見方やどの点について話し合えばいいのか。

I委員 : 5つのプロジェクトにたどりついた経緯が分かりにくい。プロジェクトの基となるデータや根拠資料を示してもらったら議論しやすいのではないか。人口は減っているが、外国人市民は増えていく中で出てきた課題を踏まえ、多文化共生の視点も入れて、5つのプロジェクトを形成していただきたい。

J委員 : もう少しイメージを膨らませるために具体的に行政が考えていることや各事業の進捗について話していただけないか。

K委員 : 若者・子育てで選ばれているまちを調べると豊後高田市や明石市が出てくる。具体的な先例の良いとこ取りがいいのではないか。

L委員 : 数字にとらわれず、何において豊かさなのか着目し、「ない」ことではなく、「ある」ことを見て暮らしていくことで違うものの考え方ができるのではないか。人口が少なくても、良いこと、得られることがあるのではないか。

服部会長 : 議論の進め方について、本審議会は大きな計画を決める場であり、市としてはマクロ的などころからブレイクダウンして事業に落とし込みたい。委員は各現場の意見があり、そこからボトムアップしたい。うまく混ぜる方法はないか、というところで、まずは、それぞれの委

員からの意見を出してもらいながら、実施する当事者となる若い人と意見交換しながら、着地点を設けるなどステップを踏むのはどうか。

プロジェクト化するデータの裏付けや経緯を示していただきたい。また、データだけではなく、「すべきこと」という市側の意思を出してもらえると理解できるのではないか。

個別の問題は現場にあり、全部出てきていない。隠れている問題を掘り取っていききたい。

事務局：課題感として、第1期、第2期と総合計画に基づく事業をやってきているが、事業と基本計画、目的と手段の関係性が弱いと感じている。プロジェクト化することは、市がどこに力を入れているかを見せることであり、イメージ戦略の部分がある。個別の課題を各委員のご意見や思いを計画に反映させていくところについては考えていきたい。

G委員：総合計画審議会とは何かを改めて説明していただきたい。

事務局：総合計画はすべてを網羅する計画であるが、事業を行う方向性を示すもの。本審議会で各分野の方からの意見をいただきながら、方向性に落とし込んでいきたい。

B委員：例えば、「新しい豊かさ」の具体的な指標についても人によって違うのではないか。具体的な事業がどうであるかが意見を出しやすいので、意見を出しやすいかたちにしてほしい。

事務局：「新しい豊かさ」については修正の余地がある。

D委員：行政が出した資料の確認をするのが審議会。確認する上で、各論の議論をしてからでないと承認ができない。時間があるのであれば、一つの方法案として各プロジェクトに集まって協議したものを事務局で整理するのはどうか。

事務局：審議会形式ではなく、策定委員会という性質を取り入れる場を設けるなどスケジュール等考慮しながら再考する。

H委員：第2期では分野を決めて、それぞれまとめていった。事務局で進め方を検討いただきたい。

服部会長：とにかく各委員が意見を出して、情報を共有する機会が必要。事務局で形式を検討いただきたい。

事務局：納得いただけるプロセスを考えたい。

G委員：各課題はあるが、マクロで見たらどうなのかという視点で意見をいただけるとよいのではないか。

服部会長：視野を広く、問題提起していただくの良いのではないか。

F委員：どこの市町村でも総合計画審議会はあるのか。

事務局：開催形式までは把握していないが、日本中どこもある。

C委員：第2期の課題の重点的なところを第3期に具体的につなげていってはどうか。

服部会長：第3期で全部やり直しではなく、第2期までに積み上げてきたものを活かしていきたい。編み上げていくところを整理するべき。プロジェクトとこれまでの施策の構造を踏まえて出していただけるとわかりやすい。再整理をして足りない部分について意見を出してもらえるのではないか。

3. その他

事務局 : 事務連絡。

今後の審議会に関して、大まかな年間スケジュールは先に出す。時間帯については個別に調整。

4. 閉会